

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「放課後子ども教室推進事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

市内小学校区において、公共施設等を活用し、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため平成25年度に和渚小学校区をモデル地区として開始した。

内容

◎和 کوچک子クラブ(平成25年度より実施)

実施14回。1年生から3年生までを対象として年度初めに参加者を募集し、木曜日の放課後に地域ボランティア等を講師として体験活動を行った。コロナ対策を踏まえて6月から隔週での実施となった。

◎上釜子ども教室(平成28年度より実施)

実施0回。例年、上釜町内会、NPO法人にじいろクレヨンが主体となり体験学習を行っているが、今年度はコロナ対策と町内会の意向により、一切の活動を見合わせた。

◎放課後子ども教室Bremen(平成29年度より実施)

実施37回。NPO法人放課後こどもクラブBremenが主体となって、体験活動や創作活動などを行った。

◎チャレンジキッズinへびた(令和4年度より実施)

実施6回。MKSC2012が主体となって、学習支援やスポーツ活動、多様な体験活動を行った。



和 کوچک子クラブ:
昔の遊び(お手玉)



チャレンジキッズinへびた:
キンボール



放課後子ども教室Bremen:
お話し会

ポイント

- ①和 کوچک子クラブとチャレンジキッズinへびたは年度始めに参加児童を募集し実施する。異学年交流を図り、班活動を中心に活動する。
- ②上釜、Bremenの活動は実施ごとに参加者を募って活動する。
- ③コーディネーターが中心となり、ボランティアの役割を明確にして活動する。

成果

地域の中で子どもたちに様々な体験・交流・学習活動の機会を提供することにより、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育むことができています。異年齢交流の場にもなっており、人とのかかわり方や思いやりの心等を学ぶ場にもなっています。

コロナ禍の中、子どもたちのために遊びや体験活動等を計画し、地域コミュニティの充実を図りながら安心・安全に活動できる居場所を提供することができた。

◇石巻市放課後子ども教室実施回数・参加者数(2月末現在)

※()は令和3年度

事業名	実施回数	児童		ボランティア	
		登録者数	平均参加者数	登録者数	平均参加者数
和 کوچک子クラブ	14回	16人(25人)	15.6人(24.6人)	17人(23人)	9.6人(13.0人)
上釜子ども教室	0回	自由参加	0人(12.3人)	15人(16人)	0人(7.3人)
子ども教室Bremen	37回	回ごとに募集	10.7人(13.8人)	14人(14人)	4.5人(4.8人)
チャレンジキッズinへびた	6回	20人	16.8人	9人	4.3人

今後の方向性

- ・子どもたちに多様なプログラムを提供できるように、地域人材の活用の他、関係機関との連携を図った取組を模索する。
- ・各地区で持続した取組ができるように、ボランティアの確保に努める。また、他地域での教室開催へ向け、人材の発掘に努める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「塩竈市放課後子供教室」(宮城県塩竈市)

取組の概要や経緯

令和3年度からのコミュニティ・スクール導入に合わせて、放課後の子供たちの安心・安全な居場所づくりを目的に、放課後子供教室を、令和4年度、市内6校に開設した。

放課後子供教室支援員の他に、体験活動の講師、学習支援、見守りなどにおいて、地域の方々の参画を得ながら活動の充実を図っていく。

内容

子供たちは、地域の方々や保護者などの学習支援や見守りの支援により、宿題や自主学習に取り組む。

また、毎月一度、地域で活躍する方や団体等の協力により、運動、創作、遊びなどの体験活動を実施する。

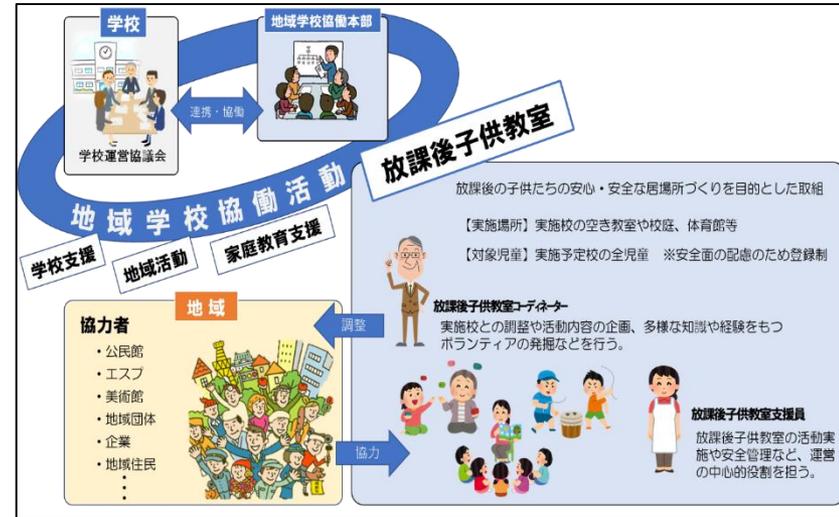
地域住民との交流活動等の機会により、地域で子供たちを育む環境を充実させ、子供たちの学びを支えていく。

ポイント

- 宿題をするだけでなく、遊びの時間では読み聞かせやクイズ、折り紙、昔遊び等に取り組んでいる。
- 活動内容は、子供自身が選択する。
- 放課後子供教室コーディネーターが体験活動の企画をしている。

成果

- ・みんなで学ぶ環境と雰囲気があり、同級生同士や異年齢による教え合いがある。
- ・遊びの時間では、各自が興味のあるものに取り組むことができ、子供たちの主体性が育まれている。
- ・コーディネーターや支援員が地域住民の参画を促すことで、協力者が増えるだけでなく、地域住民の生きがいの場となっている。



今後の方向性

- ・各校の学校運営協議会や地域学校協働本部との連携
- ・地域コーディネーターによる幅広い地域住民、団体などの参画の調整
- ・放課後子供教室についての広報

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「地域の力でつくる子どもたちの放課後」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

平成17年度に斎川小学校区で「地域子ども教室推進事業」として行ったのを始まりに、児童クラブへの移行、小学校の統廃合を経て、令和4年度は市内3小学校区で実施している。地域住民がコーディネーター、スタッフとして活躍している。



内容

市内子ども教室を総括する「コーディネーター」を配置し、活動を充実させている。平成30年度からは、**児童クラブ体型、連携型**を実施している。連携型の放課後子ども教室は閉校した学校の行事として行われていた伝統文化体験を、統合した小学校の子ども教室で体験活動として行っている。一体型の教室は、学習支援、運動遊び「ムーブメント」、絵本の読み聞かせ、造形活動、など様々なプログラムを実施している。

コロナ禍により、子どもたちの体験の場が減っている状況のなか、感染対策を徹底し、各教室が地域の特色や実情に合わせて、特色あるプログラムを実施することで、子供達の放課後の居場所づくりを行っている。



ポイント

- ①各教室ごとに**地域の伝統文化や人材を活かし**、特色あるプログラムを実施した。
- ②スタッフ会議を実施し、スタッフ同士の**感染対策と危機・安全管理対策**の共有を図った。
- ③学校との積極的なコミュニケーションを図り、コロナ禍における急な中止の連絡等が発生した際も柔軟な対応を取っていただいた。



成果

- ・特色あるプログラムを体験することで、家庭内での子どもと保護者のコミュニケーションにつながった。
- ・スタッフ合同会議を開催し、コロナ対策・安全管理など課題を話し合い、対応について考え合えたことにより、コロナ禍の中、子どもたちだけでなく、スタッフにとっても安心して活動できる場がつけられた。
- ・地域の活性化や地域住民の生きがいづくりに繋げることができた。



今後の方向性

- ・講師の派遣等を積極的に活用して、子どもたちにとって貴重な体験となる活動を展開していく。
- ・継続的に活動を行うために、スタッフや学校との連携・協力体制を話し合いを通してより強化していく。
- ・子どもたちにとって安心、安全な居場所づくりを心掛ける。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「大河原町放課後子供教室推進事業」(宮城県大河原町)

取組の概要や経緯

○様々な体験活動を通して、地域住民との交流や豊かな心を育む環境づくりや、家庭学習の定着化を目的とした放課後子供教室推進事業を「宮城県学校・家庭・地域連携協力推進事業」の委託を受け実施。本町では平成17年から実施している事業である。



内容

町内3小学校区で実施(新型コロナウイルス感染拡大により、一部事業の中止あり)

- 大河原小学校放課後子供教室(小学1~3年生)26回開催
学習支援、講師による特別教室
- 大河原南小学校放課後子供教室(小学1~6年生)57回開催
ACP活動、伝統文化継承活動、野外体験、キラキラツリー作り、茶道体験、百人一首体験ほか
- 金ヶ瀬小学校放課後子ども教室(小学1~3年生)40回開催
ハンドベル演奏、和太鼓演奏、科学実験教室、七夕飾り作り、百人一首体験、ほか



ポイント

- ・町内すべての小学校区で実施されており、スタッフも様々な特技を持った人材が揃っている。
- ・各教室のスタッフが集まり、情報交換や事業の反省を行うスタッフ会議等を開催し、各教室でのプログラムの充実化を図っている。

成果

- 大河原小学校放課後子供教室
宿題や自主学習等の学習支援を重点的に実施するほか、仙台大学レクリエーション部による体験型プログラムや科学実験教室などの特別教室を実施し、好評を得ている。
- 大河原南小学校放課後子供教室
児童クラブとの連携型として実施。NPO法人キハト会に業務委託し、幅広い体験活動を行っている。また、エコ活動(ごみ拾い・分別)や防災学習も実施している。
- 金ヶ瀬放課後子供教室
児童クラブとの連携型として実施。地域の特色を生かしたプログラムを特徴としている。ハンドベルや和太鼓の発表会に向けた取り組みを重点的に実施した。

今後の方向性

- 多彩な体験型プログラムや野外活動の充実を図る。
- スタッフの高齢化や固定化が進んでおり、コーディネーターを含めたスタッフの後任育成や選考、運営体制の見直しを検討していく必要がある。
- それぞれの小学校区で行っている特色を生かし、現在の内容をさらにブラッシュアップをしていくほか、参加児童や保護者アンケートの回答を基に、内容の見直しや充実を図っていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」(学校を核とした地域力強化プラン) (学び支援コーディネーター等配置事業)の取組事例

「亘理町放課後子供教室『放課後楽校』」(宮城県亘理町)

取組の概要や経緯

東日本大震災後、町内の各小学校や近接する社会教育施設を主な会場として、在校するすべての児童を対象にした取組を再開・新設している。
地域住民や各地区交流センター、各まちづくり協議会員等、様々な立場の方が参画し、活動ボランティアとして企画・実践を行っている。



内容

- 各校に1~3名ずつ、コーディネーターを配置し、地域住民等と共に、年間15回の活動内容を検討し、放課後の時間に参加申込みをした児童(各校30名程度)と様々な体験活動を行う。(レクリエーション、制作活動、昔遊び、ニュースポーツ、陶芸、料理、書道、読み聞かせ等)
- 各教育活動推進員が作成した計画書を基に児童と楽しく関わりながら実践する。
- 年3~4回、「放課後子供教室連絡協議会」を実施し、活動の反省や実施内容の検討、担当するスタッフの決定等を行うと共に、様々な情報交換を行いながらより良い活動を目指して意見交換を実施する。



ポイント

- ①新型コロナの感染防止策を毎回徹底して、活動を行う。
- ②参加児童に多様な体験ができるように、毎回工夫を凝らした多様なプログラムを計画
- ③様々な趣味や特技を有している地域住民の自己実現の場の提供
- ④地域住民が主体的に協働することを可能とするコーディネーターの存在
- ⑤よりよい事業運営の実現を可能とするコーディネーター会議の実施
- ⑥行政や地区交流センター、まちづくり協議会と連携した多様な学びの機会を提供する。

成果

- ・活動ボランティアとして参加している多くの住民が、事業の趣旨を深く理解し、地域コミュニティの再生や児童育成への思いに対して高まりや深まりが感じられる。(R4調査:スタッフとして「活動に参加して良かった」との回答が100%)
- ・学校や家庭では味わうことが難しい多くの体験活動に取り組めるため、参加児童は、大きな満足感が得られるだけでなく、他学年児童やスタッフ等との人間関係の広がりも見られた。(R4調査:「活動に参加して良かった」と回答した児童が98%、保護者100%)

今後の方向性

- ・現在、町内に6校ある小学校のうち5校で開校。残り1校は、小規模特認校の特性を生かし、本事業で連携を強めた地域人材を紹介し活動の幅を広げたい。
- ・行政や各地区交流センターや各まちづくり協議会との連携を一層充実させ、「地域学校協働本部」にて育みたい子供像の共有化を行う。
- ・児童館や放課後児童クラブとの連携も一層充実させ、各校の実情に応じた合同活動の実施を重ね、一体的運用の取組を充実させる。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「まつしま放課後子ども教室」(宮城県松島町)

取組の概要や経緯

- ・放課後等の児童の安全・安心な活動拠点を確保し、地域ボランティアの参画を得ながら、児童の健全育成を推進するとともに地域の活性化を図ることを目的に実施。
- ・平成30年度に新規事業として開設され、自由遊びを中心に実施してきたが、令和4年度より内容を見直し「学習支援」と「体験遊び」の2本立てで実施している。

内容

- ・町内三つの小学校で、各校月曜日に開催(各校年間8回設定)。
- ・活動場所は、学習支援：特別教室、体験遊び：体育館。
- ・宿題や自主勉強を行う「学習支援」と、松島の歴史文化等の教育資源やスタッフの得意分野を活かした「体験遊び」を実施。活動を通じて、異学年やスタッフとの異年齢交流が生まれるよう促すほか、松島の地域や文化に愛着を持つことができるよう工夫した。
- ・午後4時までは自由下校。午後4時30分まで参加する児童は、保護者の迎えがある場合のみ利用できる。



学習支援



ジュニア・リーダーと遊ぼう



むかしあそび(こま回し)



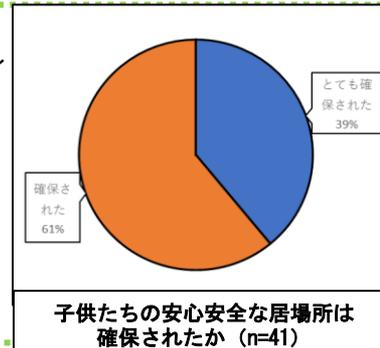
松島かるた大会

ポイント

- ①「学習支援」は原則として児童達が主体的に進められるよう見守りを行うが、解き方が分からない場合などにはスタッフが指導・助言する。
- ②「体験遊び」では「ジュニア・リーダーと遊ぼう」「松島かるたづくり」「松島かるた大会・むかしあそび」を行い、地域で活躍する人材や松島の歴史や文化に楽しみながら親しむことができるよう活動を設定した。

成果

- ・町の広報誌を通じてスタッフ募集を行い、地域住民等3名が新たに加わったほか、県内大学・専門学校に通うジュニア・リーダーOGをスタッフとして迎え(活動は長期休みを中心に参加)するなど、人材確保ができた。
- ・「学習支援」と「体験遊び」の2本立てで活動を構成したことで、活動にメリハリがいった。また、アンケート調査では放課後子供教室に参加することで子供たちの安心・安全な居場所が確保されたと答えた保護者が100%となった。
- ・安全管理の面から今年度より活動場所を原則1箇所に制限して開催したが、限られた場所のなかでも各自工夫して遊びを創造しており、児童の主体性を育むことができた。



今後の方向性

- ・スタッフが高齢化していることから、継続した人員確保が必要となっている。今後も広報紙等による周知や保護者への声かけなどを行い、より多くの地域住民が参画していける体制を整えていきたい。
- ・「体験遊び」のメニューについて、登録児童のニーズを反映していくほか、地域人材・資源の活用を図りながらより充実した活動を行っていきたい。
- ・現在は事務局主体に運営しているが、徐々にコーディネーター・スタッフによる自走化をしていけるよう促していきたい。